

教育相談特別研修研究報告動画

○内容

① テーマ『高校生の悩み相談についての研究』

—相談経験や適応感は悩み相談への考え方に影響を及ぼすか—

全日制普通科高等学校に通う生徒を対象にして過去の悩み相談経験を調査し、その援助評価と学校への適応感及び被援助志向性の関連を検討した。その結果、高校生の援助を求める気持ちは対家族や対友人の方が、対教師、対ＳＣよりも強いことが分かった。また、援助評価は学校への適応感と被援助志向性に影響を与えること、学校への適応感も被援助志向性に影響を与えることが示された。さらに、相談相手に求める主な条件として、「守秘」「聞いてくれる」「受容」が見いだされ、相手の態度を重視することが分かった。

② テーマ『高校生における教師への信頼感が学校適応感に与える影響』

—不登校の未然防止を目指して—

不登校児童生徒数は依然として増加傾向であり深刻な問題である。不登校のきっかけとして「先生のこと」と回答した児童生徒が多数いることが文科省の調査で分かっており、教師との関係性が生徒の不登校へ影響する可能性が考えられる。そこで、生徒の教師への信頼感と学校適応感の関係について調査し、信頼感の重要性について考察する。また、生徒に「先生からの対応で嬉しかったこと」、教師に「これまでにうまくいった指導法」について記述式調査を行い、その結果を調査校へフィードバックすることで、教師の生徒対応に関する意識変容を図り、不登校の未然防止を目指す。

③ テーマ『高校教員による多面的な生徒理解と支援意識向上への実践』

—アセスメントシートの活用とケース会議による支援体制の構築を通して—

複合的な課題を抱える生徒一人一人への適切な指導・援助のためには、教員による多面的な生徒理解が欠かせない。個々の教員が多面的な視点で情報を収集・整理・共有するために作成したアセスメントシートの活用と教員間で見立てと手だてを検討するケース会議の実践を通して、教員によるよりよい生徒理解と支援の在り方を検討した。実践の結果、教員による生徒理解の多面化と情報共有意識、支援意識の向上が見られ、個人から組織へと多面的な生徒理解を進めることで、教員の生徒への支援意識が高まることが示唆された。

※令和6年度教育相談特別研修における研修内容のまとめを動画で紹介します。